



Vol. 7 / Serial
No. 134

2016. 3. 15.
 (8pgs)

Copyright (c) 2016 by Bosai Plus. All rights reserved.

■ CONTENTS ■

- P. 1 《特別企画》
 ☆外国人にも日本人にも
 伝わる『やさしい日本語』
 ・常総市豪雨災害で情報は…
 ・弘前大学の
 「やさしい日本語」新着情報
 ・伝えるから「伝わる」情報へ
- P. 3 話題を追って[1]
 ・東北観光元年!
 東北六県「観光100選」決定
- P. 4 話題を追って[2]
 ・防災士10万人 記念大会
 防災士育成を国民運動に
- P. 6 [仙台発]
 ・仙台防災未来フォーラム2016
 地区防災計画はいま
- P. 7 ClipBoard ~着信あり!
 災害・防災情報リンク集
- 〈特設WEBコーナーへのリンク〉
 ★2016年3月/4月の
 防災2カ月イベントと災害カレンダー

各ページの青文字をクリックすると
 情報源へジャンプします。



www.bosai-plus.info

Bosai Plus ホームページでも、いろいろ
 ご活用いただける話題を提供しています。
 ぜひ「お気に入り」にお加えください。

《特別企画》外国人にも日本人にも「やさしい日本語」
**災害時も平時も、伝わることばで。
 だれにもわかる「やさしい日本語」**

米国では、レスキュー隊やボランティア要員にブレインイングリッシュ(平明な英語)を義務づけ…



上画像:愛知県岡崎市の多言語防災緊急メール「防災くん」より『やさしい日本語』での配信見出し例。『やさしい日本語』では通常の日本語の丁寧語や婉曲的なあいまいさは削ぎ落とされ、実質本位の表現となる(画像クリックで拡大表示)

【“伝えた”つもりでも、“伝わらなければ”いのちにかかわる災害情報】

●減災のための『やさしい日本語』への取組みが広がるが……

先の常総市豪雨災害では聞かれなかった『やさしい日本語』

本紙は東日本大震災発災の直前号となる2011年3月1日号(No.13)特別企画「外国人支援」で、弘前大学人文学部社会言語学研究室(佐藤和之教授)の災害時に日本語の理解が不自由な外国籍市民とコミュニケーションを取る際に役立つ『やさしい日本語』の研究開発・活用提案の取組みを取り上げた(文末に同号へのリンク)。

その後『やさしい日本語』の普及は大きく広がっている。同研究室によると、全国で『やさしい日本語』を応用した減災のための取組みが始まっていて、2015年にはすべての都道府県でその活用事例を確認しているという。『やさしい日本語』を活用する主体は外国人に災害情報を伝える側で、都道府県庁や市区町村役場、消防、ボランティア団体、マスコミ、町内会などだ。

しかも最近では防災分野に限らず、生活一般のいろいろな場面(役所や交通機関のお知らせ・案内など)で、伝えた情報が「伝わる、わかりやすい」ということから意識的に『やさしい日本語』の導入が図られ、一般市民にも好評だという。

いっぽう、2015年9月関東・東北豪雨における茨城県常総市での豪雨災害で、英字紙ジャパントゥタイムズ(2015年9月17日付け)は、市から伝えられる防災無線の内容が理解できず逃げ遅れた外国人が数多くいたことを伝えた。また、東京新聞(2015年9月15日付け)によれば、常総市の人口6万5000人の6%・約4000人が外国人(大半がブラジル人)にもかかわらず防災無線の放送は日本語のみで、彼らは避難情報をほとんど理解できない不安と混乱のなか、市内19カ所の避難所に計76人がやっと避難。外国人への緊急時の情報伝達について市の担当者は「現状ではそこまで手が回らない。今後、改善していかなくてはならない」と話したという。

いのちにかかわる災害情報は“伝える”ことだけでは完結せず、受け手に“伝わる”ことこそが重要であることを浮き彫りにさせた事例だった。

●弘前大学研究室から“新着情報”

『やさしい日本語』の読み方スピードと用字用語辞典

『やさしい日本語』の有効性を再認識させた豪雨災害から半年、弘前大学の佐藤教授から、「東日本大震災からちょうど5年になる3月11日に、減災のための2編の『やさしい日本語』資料を公開します」との情報提供を受けた。2編の『やさしい日本語』資料とは、次の2つである――

▼「災害時の放送で外国人に情報が的確に伝わる『やさしい日本語』の読み方スピード～日本人を対象とした連文での調査結果～」

同研究室は、常総市の事例のように外国籍住民が災害に遭う状況はいつでも起こり得るとして、外国人が聞き取りやすく、理解しやすい『やさしい日本語』による放送文の読み方スピードを調査してきた。その成果として、外国人に理想的な読み方スピードは360拍/分であることを明らかにした(360拍/分は、平易な日本語で読まれるNHKの「NEWS WEB EASY」のスピードを参考にした)。このスピードが日本人にも受け入れられることを検証する調査も行った。

>>NHK「NEWS WEB EASY」

▼「生活情報誌作成のための『やさしい日本語』用字用語辞典～自治体・外国人支援団体向け『やさしい日本語』カテゴリⅡ～」

自治体や外国人支援団体が平時にも『やさしい日本語』を使った生活情報誌を安心してつくれるように、辞典では、語や漢字の難易度を一覧にして、記事で使った語が外国人にとってわかりやすいかどうかを調べられる。むずかしい語は『やさしい日本語』での言い替え表現を書き添えた。災害時にも迅速に『やさしい日本語』で情報を発信することができる。

●伝える情報から「伝わる情報」へ

読者からの『やさしい日本語』対応事例の情報提供が示唆に富む

大阪市は去る3月4日、市役所本庁舎で、緊急地震速報が出た場合や火災などの災害等発生時の館内放送で、日本語に不慣れな外国人や子どもなどにも情報を伝えるために『やさしい日本語』を取り入れると発表した。また本年4月施行の「障害者差別解消法」を踏まえ、『やさしい日本語』での館内放送に加えて、放送内容をイラストなどで示した紙を作成した。

実はこの大阪市の広報情報は、本紙読者から提供された。読者Aさん(防災士、匿名希望)はさらに、大阪市の鶴見区と平野区の『やさしい日本語』を使った出前講座情報や、大阪の冬の風物詩となった「OSAKA光のルネサンス」での『やさしい日本語』対応看板写真を提供、また内閣府「定住外国人施策ポータルサイト掲載におけるやさしい日本語の活用に関するPlain English(平明な英語)についての調査」(弘前大学・佐藤教授が報告書監修協力)から、米国の先進事例(カリフォルニア州ロサンゼルス郡)として次の文章を紹介していただいた――

「災害時には、大卒の大人であっても、動揺やショックのため会話力が小学校4年生並みに下がる場合もあるため、被災者に対しては、すべてプレインイングリッシュ(平明な英語)によって対応することが、レスキュー隊やボランティア要員に義務づけられている。プレインイングリッシュ(平明な英語)を使った救助方法は、各地方都市の政府や消防署等が開催するトレーニングで学習する。同様に、消防署、病院等が一般向けに配布するパンフレットは、すべて小学校4年生が理解できるような明瞭で簡潔な英語を使用している」

Aさんは、「災害情報が正しく伝わるためには『伝える』から『伝わる』への意識転換が必要。『やさしい日本語』は、外国人・日本人にかかわらず情報格差をなくす手段になる。情報は伝わってこそ活き、受け手の適切な行動を促し、いのちを救う」との言葉を添えている。

●自治体の取組みに『やさしい日本語』導入の動き

“情報の伝え手”は、いのちにかかわる情報を伝えることに真摯な対応を

いっぽう、内閣府(定住外国人施策推進室)は3月11日、事例集「日系定住外国人の集住する地方自治体における取組み」を公表した。これは在留期間が長期化する傾向にある日系外国人の日本語能力や子どもの教育などの課題に加え、災害時や防災・減災への取組みに重点を置いて、都道府県、市町村、関係機関等の取組み事例をまとめたもの。

この事例集のなかから「過去の実際の災害時に有効であった施策や取組事例」を見ると、災害情報の伝達手段ではほとんどが翻訳・通訳による個別の言語を用いているが、静岡県浜松市の「防災ホットメール」の配信では『やさしい日本語』での配信を選択でき、同市は現在扱える言語(英語、ポルトガル語)以外の言語への対応や翻訳者の確保・翻訳に要する時間に課題があり、「できる限り『やさしい日本語』化したものを配信することで対応している」とする。

また、静岡県掛川市の事例でも、「どの職員でも対応でき、かつ幅広い年齢層に理解してもらう」という意味では『やさしい日本語』による放送も同様に有効としている。

Aさんは、「私が『やさしい日本語』に興味を持ったきっかけは、東日本大震災で『高台に避難してください』という情報は多くの日本人の命を救ったが、外国人には伝わらなかった。『高い所に逃げて!だったらわかったのに……』という記事を読んだことだった」と言う。まさに、災害情報は、うまく伝わらなければ“いのち”にかかわる深刻な事態を招く、と言えるだろう。

>>《Bosai Plus》2011年3月1日号(No.013):「災害時の外国人支援はいま……」

>>弘前大学社会言語学研究室:「『やさしい日本語』が外国人被災者のいのちを救います。」



弘前大学文学部社会言語学研究室:「『やさしい日本語』が外国人被災者のいのちを救います。」(パンフレット表紙(画像クリックで拡大表示))



上画像:大阪市平野区の『やさしい日本語』を使った防災訓練のちらし。下写真:「OSAKA 光のルネサンス」会場の『やさしい日本語』を用いた順路表示(写真提供:小紙読者Aさん(画像クリックで拡大表示))